

船井情報科学振興財団 留学報告書 2013年11月

長野光希

アメリカ大学院留学も2年目になりました。特にこの半期は、学会での大きな発表があったり、新しいプロジェクトがスタートしたり、財団の交流会があったりと、充実した期間を過ごすことができています。

【プロジェクト】

[前回のレポート](#)でも書きましたが、開発に関わってきた [3D ディスプレイとデジタルキャラクター](#)に関する発表を SIGGRAPH2013 (Anaheim)などで行いました。SIGGRAPH2013には17,000人超の参加者があり、我々が3Dディスプレイの発表を行ったセッションは、会期中5日間デモンストレーションをし続けるもので、装置が安定して作動し続けるかなど不安がありましたが、故障もなく無事に発表を終えることができました。発表の質を上げるために、開発は会期中の会場でも続き、朝5時まで泊り込みで作業した結果、Overnight Parking で駐車違反のチケットをもらうなどのトラブル(?)もありましたが、The Wall Street Journal が取材ビデオ(<http://on.wsj.com/lwyvh>)を作ってくれたり、様々なフィードバックをもらうことができました。

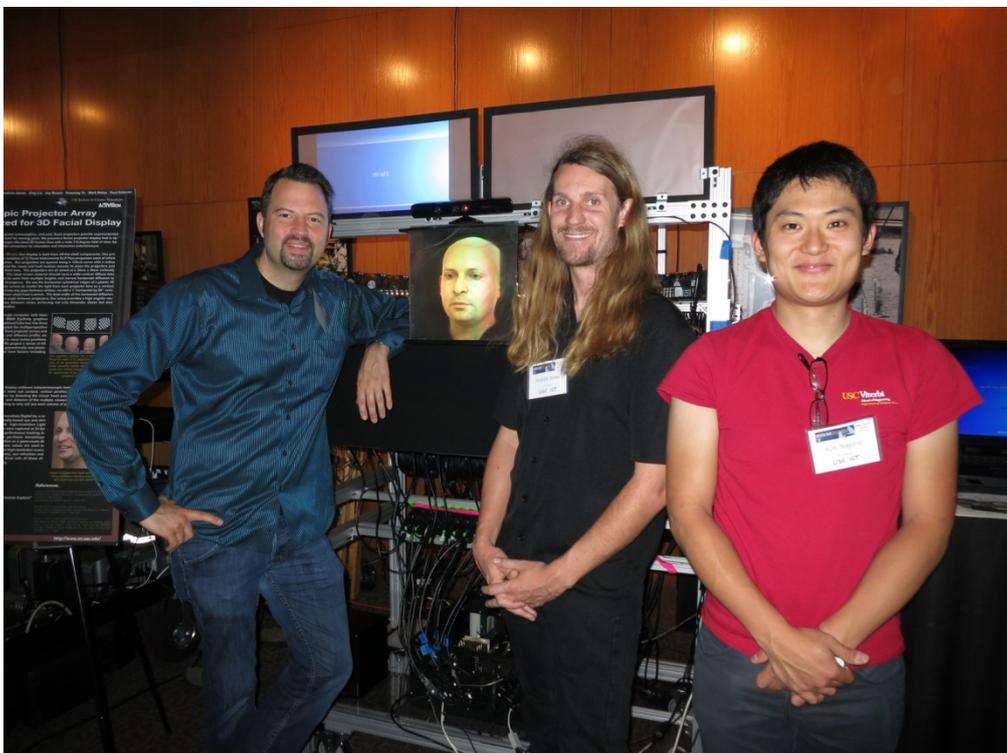


Fig.1: 全米監督協会でのデモ



Fig.2: 研究室外でデモンストレーションを行うために、
装置全体をカートに移し変えて、会場にはレンタルトラックで行きました

夏には同プロジェクトの論文投降を行い、カンファレンスプロシーディングとジャーナルへの採択が決まり、2月にはサンフランシスコで口頭発表を行う予定です。

また、夏には研究室の新しいプロジェクトのグラントプロポーザルを書くチャンスを得て、自分にとってはまったく新しい方向性の模索が始まりました。知らないことが多く、挑戦的な日々が続いていますが、とても充実しています。あとは何とか結果につなげたいと思います。

【TAの英語の授業】

外国で多くの時間を過ごしてきた留学生は、何らかの形で英語の授業を取るようになるでしょう。USCでは、ティーチングアシスタント(TA)になるためには、TA用の英語の試験を突破することが要件になっていますが、1度で突破することは難しいため、多くの留学生が授業を受けることとなります。USCのTA用の授業には独特なシステムがあるので紹介したいと思います。授業が、週に2時間×2回あるのは他の授業と一緒にですが、この英語の授業ではundergraduate Student Consultant (uSC)というシステムがあり、大学院生の留学生とネイティブの学部生が毎週授業以外の時間にコンサルテーションを行います。コンサルテーションは、プレゼンテーションなどの発表が近いときは、発表練習を行ったり、個人に特化した発音の練習などを行ったりします。1対1のレッスンなので、自分の発音や言葉遣いの伝わりにくいところなどが、以前より大分客観的に認識できるようになりました。これだけでも勉強になりますが、授業ではアメリカの文化への理解へもストレスがおかれているため、コンサルテーション中はフットボールの試合を見に行くのも、美術館に行くのも、レストランに行くのも自由です。普段の大学院生に囲まれた研究室生活だと、使う言葉も比較的限られ、コミュニケーションをとるのも難しくはありませんが、文脈がゆるい日常会話となると母国語でない人たちにはなかなか難しいものです。普段の日常会話中では、若者言葉やジョークなど、アメリカのカルチャー英語的な部分でわからないことがあっても、会話がしらけるのでなかなか聞きにくいですが、コンサルテーション中は気軽に聞くことができるので、カルチャー英語的な部分のよい勉強になりました。アメリカのTVドラマやコメディなどは、沢山あってとっつきにくい印象でしたが、コンサルテーションをきっかけにして時間があるときに少しずつ見るようになりました。また、これまでは研究室中心の生活なので、自分より比較的年齢が上の人との交流が多かったですが、学部生との交流で、研究室で時々耳にする言葉¹が学部生ぐらいの年齢ではもう使われていなかったりすることに気づくのはなかなか面白いものです。留学1年目でまったく余裕がなかった昨年は、ハロウィーンもオフィスでいつも通り過ごしたと思いますが、授業を通じて、今年はペアの学部生の家で、近所の子供にキャンディを配ったり、カボチャを掘ったりと、アメリカンな過ごし方をすることができました。相手のカルチャーに対する理解をより深めると、日常生活におけるものの見方や会話が豊かになって、留学生活もより充実してきそうです。これからもずっと、語学の勉強は続けていきたいものです。

¹ 年代によって使う言葉が違うのは日本語でも同じなので、少し気をつけて聞いてみたいと思います。



Fig3: ハロウィーンの夜の住宅街は、
電飾やハロウィーンにまつわるオブジェクトで溢れていた